【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	相知小学校

1　前年度 評価結果の概要	・学力向上等すべての取組について、共通して実践していく内容について全職員で共通理解をすることができた。 ・働き方改革、業務改善を念頭に置き、学校行事や校時程等を見直し、職員個々の意識高揚を図りながら、引き続き超過勤務削減に努める。 ・地域の関係団体との連携をより一層深めながら、より具体的な社会に開かれた教育課程の実現に努める。
2　学校教育目標	保護者や地域と共に創る！　やる気　やさしさ　えがお　あふれる相知小　ONE　TEAM!! ～　おちついて　うでくんで　ちえをだしあう　相知っ子！　にこ・きび・はき・どん！！　～
3　本年度の重点目標	・自ら課題を見つけ、考え、挑戦し、健康な心や体作りに取り組む子どもを育てる。 ・自ら律しつつ、互いのよさや成長を認め合い、やり遂げた喜びを実感する子どもを育てる。 ・自ら課題を見つけ、考え、学んだことを活用しながら、探求する子どもを育てる。

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。	・マイプランに特化した職員研修 ・定期的な唐津市学力向上シートによる自己評価	A	・校内研を軸としてマイプランを意識して、授業改善が進み、学力向上に向けて取り組むことができた。県学習状況調査では、県正答率以上だった教科が8教科のうち5教科で、県正答率と同等が1教科であった。
	○交流活動の充実による思考力の向上	○児童に学習意識調査を行い、「交流活動をすることで学習がよくわかる」という質問に対して肯定的に答える児童の割合が80%以上。	・児童が主体的に問題を解決できるように、交流活動の前に目的や、考えを整理する観点を明確に示しておく。	A	・児童の意識調査を後期も実施した結果、全体の92%の児童が、「交流活動をすることで学習がよくわかる」という質問に対し肯定的に回答していた。学級間の差は変わらずあるが、学級内で前期と比較すると、伸びている学級がほとんどであった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●児童が「友だちと協力している」，保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を80%以上にする。	・集会活動を計画的に実施し，児童に役割を与え，任せ，認める。 ・人権意識を高めるための取り組みとして，全校人権集会を年1回，なかよしタイムを年7回実施する。	A	・年間を通して実施したなかよしタイムや人権集会、児童集会の取組で、児童が自分の考えや思いを表現し、主体的に活動することができた。今後は、児童の実態に合った内容を精選し、系統的に指導していくよう計画を立てることが必要である。また、掲示の仕方等も工夫したい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等（いじめの定義、いじめ防止の取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答する職員を90%以上にする。	・いじめの覚知・認知に対するマニュアルをもとに共通理解の周知徹底と見直しを行う。 ・いじめが起きないような学級風土づくり、学級経営についての研修を年3回以上行う。	A	・Q-Uの研修や、いじめ問題に関する研修を行い、職員の意識向上を図ることで、児童の変化にいち早く気づき、問題の深刻化を防ぐことができた。 ・いじめや生活問題が起こった場合でも、該当学年の職員だけでなく、教職員間で問題を共有し、迅速かつ的確に対応することができた。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）を80%以上にする。	・各種体験活動では、児童生徒に活動の目標設定、活動の見通しと学びの振り返りを必ず行う。	A	・教員の「授業や体験活動等における目標やふりかえりの場の設定」については100%であり，児童の「授業や活動のめあてに向かってがんばること」については93%ができていると回答した。児童は自らの夢や目標に向かってしっかりと取り組むことができていることから、児童一人ひとりの目標達成にしっかりと寄り添う教師の姿勢についても研鑽を深めていきたい。
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●昼休みに外遊びを行う児童の比率を60%以上にする。	・運動場の決められた遊び場所や道具の使い方についての指導を行う。 ・雨の日は学年割りで体育館を開放する。 ・外遊びを奨励する放送を行う。	B	・寒い時期ではあるが、外遊びに出る子は変わらず多い。昼休みに靴箱を見ても半数以上の児童は外に出て遊んでいる様子である。雨の日の体育館開放を継続しているが、使ってよい道具の種類についての議論をこれからしていきたい。 ・外遊び奨励の放送をなかなかすることができなかったので、次年度は意識的に行っていきたい。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●朝食を摂って登校する児童を95%以上にする。	・給食だよりや保健だよりで朝食摂取の効果を掲載し、家庭への啓発を行う。 ・体調不良で来室した児童へ朝食摂取の聞き取りを行い、必要があれば指導する。	B	・給食だよりや掲示物を通して、朝食摂取の効果や必要性について家庭や児童への啓発を行うことができた。 ・朝食喫食率が93．5%と目標に届かなかった。摂食をしない理由として、「朝は時間がない」と言う児童もみられるため、朝食摂取の必要性とともに、生活リズムの向上についても発信していきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・年間において月の平均時間外在校等時間45時間以内を遵守する。 ・全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。	B	・現在、月平均時間外在校等時間については、約38時間となっており目標を達成している。しかし、目標を達成できていない職員が6名いることから、引き続き職員に応じた働きかけを行っていく。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の体制づくりと支援の充実	○対象児童の共通理解や職員間の情報共有を図り、支援体制を整えながら、よりよい支援の充実を図る。	・児童理解研や必要に応じて校内支援委員会を実施し、個々に合った支援の方策を検討・実施する。 ・校内研修により、全職員の特別支援教育へのスキルアップを行う。	B	・校内支援委員9名を決め、校内支援委員会を開き、具体的な対応を模索したり支援策を講じたりしながら、できるところから児童の支援へと繋げることができた。今後も、学級を回ったり日常的に職員と話したりする中で、困り感の強い児童の情報を共有し、全職員チームとしての関わりや寄り添いを大切にしたい。
○保護者・地域との連携	○育友会、各関係団体との連携強化による体験活動の充実	○生活科・総合的な学習の時間等に位置付けている体験活動をさらに充実させることを通して、地域の方との交流を図り、ふるさと相知に誇りをもつ児童80%以上を目指す。	・体験活動については、昨年度以上の達成回数を目標とするが、併せて内容の充実にも取り組み、ふるさと相知に誇りをもつ児童を育てる。	A	・教員の「体験活動を通して、地域の方との交流をはかることができている」については93%であり、児童の「体験活動では、地域の方とかかわりながら熱心に活動しているか」については92%ができていると回答した。年度末には今年度の取組をふりかえり、内容の精選、充実を図る。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学力向上はじめ全ての取組について、共通して実践していく内容について全職員で共通理解をすることができた。今後は外遊びの奨励及び朝食喫食率の向上に向けての具体的な取組を進めていく。 ・業務改善を念頭に置き、学校行事や校時程等を見直す。引き続き、職員個々の意識高揚を図りながら、超過勤務削減に努める。 ・今後もふるさとに誇りをもつ児童を育てていくために、保護者、地域、学校のつながりをより緊密なものにしていきたい。